

ユニセフの物資供給の仕組み

—緊急事態発生後48時間以内に物資を送り込む—



©UNICEF COPENHAGEN/DENMARK

ユニセフは緊急事態発生後48時間以内に必要な支援物資を現地へ届けるため、デンマークのコペンハーゲンにある物資供給センターと、3カ所の緊急支援用倉庫（南アフリカ・ヨハネスブルグ、アラブ首長国連邦・ドバイ、パナマ・パナマ市）に、多くの支援物資を準備。この4拠点で、32万人の人びとが3週間の間に必要とする支援物資を提供できます。今回はユニセフの一番大きな倉庫、「コペンハーゲン物資供給センター」についてご紹介します。

コペンハーゲン物資供給センター

アンデルセンの人魚の像から徒歩20分ほどの港の一角にある、面積25,000平方メートル、サッカー場約3面分の大きな倉庫、これが「ユニセフ物資供給センター」です。スタッフはおよそ200名。24時間体制の業務で、自然災害や武力紛争による緊急事態が発生した場合はいつでも即座に対応し、48時間以内に世界中のどこへでも医薬品や毛布、テントなど支援物資を届けることができます。

このセンターはユニセフが行っている支援事業に必要なさまざまな物資を国際入札で世界中から購入し保管・発送しています。2005年の取り扱いは、11億米ドル以上。医薬品、ノート等の学用品、ぬいぐるみや積木(幼児教育用)など全部でおよそ1,700品目を扱っています。

センター内には、ベルトコンベヤーが数列置かれていて、手際良くスタッフがキットの箱詰めをしています。「キット」とは、緊急事態の際に必要な物資を軽くて丈夫なケースや箱・袋に詰め合



キットの箱詰めをするユニセフスタッフ
©UNICEF/HQ04-0864/Lars Bech

わせたものです。教育キット(80人分の学習用資材)、レクリエーションキット(遊び道具)、新緊急保健キット(医薬品、基礎医療器具:1万人を3カ月にわたって治療可能)など多種にわたります。



箱詰めのできた教育キット
©UNICEF/HQ05-1097/Christopher Grant

パキスタン地震の際、多くの救援物資とともに、サッカーボールなどが入ったレクリエーションキットも子どもたちに届けられました。子どもたちの心の傷を癒やすには、スポーツが役立つだろうと考えられたからです。



2005年 デイビット・ベッカム ユニセフ親善大使が物資供給センターを訪れました
©UNICEF/HQ05-0082/John McConico



レクリエーションキット
©UNICEF/HQ05-0186/Jan Mun

迅速で効率のよい緊急支援

緊急事態は、「時間」との勝負になります。物資供給センターのすぐれた点は、豊富な備蓄資材を、いつでも被災地に送ることができることです。ユニセフでは、人びとが必要としている物資を迅速に送り届けることができるように努力をしています。



©UNICEF/HQ03-0087/John McConico

コペンハーゲン物資供給センターより支援物資を飛行機に積み、被災地へ



©UNICEF/HQ05-1456/Asad Zaidi

空輸でパキスタンに到着した支援物資を被災地の倉庫へ



©UNICEF/HQ05-1739/Asad Zaidi

パキスタン地震の被災地に到着した冬衣料キットを受け取る女の子